

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
なかま編集係  
〒285-0025  
佐倉市鏑木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ	輝いた目は美しい.....	里見芳郎	白と白.....	村田長保
3 ページ	“いじめ”をどうする.....	廣吉正毅	佐倉朝日健康マラソン今昔物語.....	白石義孝

## 「いじめをどうする」に触発されて

服部 一 宏

今月号の投稿「いじめをどうする」に触発され、日頃いだいでいる、「いじめ」問題に関する考え方を整理してみました。この関連記事が連鎖反応を起こして、諸賢からの、更なるご意見、ご投稿が頂ければ、望外の喜びです。

話題が飛躍しますが、昨日のテレビで、偶然、野球殿堂入りしている野球評論家の山田久志氏が、インタビューされていて、るところに出会った。山田氏が、自分が野球殿堂入り出来たこと、自分をそこまで人間として育ててくれた原点は、高二の試合で取り返しのつかぬ大失策をし、その時以降、自分は、野球という技術訓練や体力づくりだけに止まらず、「心のスタミナ」を付けることを誓い、自分が一番大切なことに付いて、自分に厳しく、徹底的に考え抜くことで、「心のスタミナ」

が鍛えられるのだと信じて努力してきたことだと語った。この山田氏の人生訓、「徹底的に考え抜き、心のスタミナを鍛える」という言葉は人間にとつて意義深い言葉だと思えます。こうして得られた認識は、自分の心の支柱となり、不転の信念となつて、人間社会で自分が生きていく上の、貴重な羅針盤になっていきます。また、こうした人生上の羅針盤がしっかりと、人間として、何が善で何が悪か、何が立派で何が立派でないか、本質的に大切なものを見分ける判断力などが自然に備わってきます。

「徹底的に考え抜く」努力をするようになっただけでも、「いじめ」というものが、如何に人として恥すべきことであり、「いじめを犯す人間の心の虚弱さ」にも気づくことが出来て、少なくともいじめをした

り、いじめを受けない人間になると思えます。

「いじめをどうする」にも示唆されているように、「いじめ対策には、特効薬はない」と思えます。それゆえに、地道で、永続的な活動が必要です。

新聞紙上では、子供のいじめが専ら取り沙汰されていますが、実際には大人のいじめが、子供の件数よりはるかに多いと思えます。そして、気付かないうちに自分自身が、いじめをしている場合もあると思えます。そんな自分にならないために、常に「心のスタミナを鍛える」ことを忘れず、宮澤賢治の「雨二毛負ケズ」にあるような、常に謙虚で、相手と同じレベルの視点から、自分のことと同時に相手の立場からも、ものを観、考え、行動するように努めることも、大切且つ有効な、いじめ予防法になるのではないのでしょうか。

(編集委員)



## 輝いた目は美しい

私のライフワークの一つに「写真撮影」があります。社会人になって、初めてのポナスを全て叩いても不足だった一眼レフを手にしたのが写真を始めたきっかけでした。

十数年前、九州博多に単身赴任した折、休日の余暇を有効に過ごそうとカルチャースクールの写真教室に入學し、六年間本格的に撮影技術を学びました。フジフィルムやコダックのフォトコンテストの受賞や、千葉県写真展等での入賞入選が励みとなり、より拍車がかかりました。また同好の仲間との写真展開催も楽しみの一つです。

写真撮影の対象はネイチャー・風景・スナップ・祭り等広範囲に亘りますが、現在最も関心を持って撮影している対象は「人間の輝く目」です。人が何かに熱中している時の目は、それが遊びであろう

と仕事であろうと、とても輝いて美しく感動的です。そんな輝く目を写真に切り取りたいと意識的に取り組んでいきます。

今まで挑戦してきた「輝く目」は、ラグビーでトライを狙う選手の鋭い目、アメリカンフットボールでヘルメットのアイシールドから覗く戦う目や、また相馬野馬追いの疾駆する鎧武者の勇ましい目、成田太鼓祭にて太鼓の打ち手の喜びに満ち溢れた目等々があります。

今後チャンスがあれば、看護学校卒業時のナースの戴帽式や、剣道の面金から覗く剣士の鋭い目も狙ってみたいと考えています。

そして、その「輝く目」の撮影を通して、これからも何事にも積極的に挑戦する意欲を失なわず、自分自身も輝いた目を持ち続けたいと思っています。

(大崎台 里見芳郎)

## 白と白

キユウ キョク

白井の「白」の字は易しいようで意外とむつかしい。我家に送られて来る手書きの郵便物のうちの五割近くが何らかの誤りを冒している。一番多いのが最後の六画目の横棒を二分し、「白」としてしま

う例だ。下まで穴があいては白としての機能は果せない。次に多いのが「白」という字をまっ二つに割ったような「白」八画タイプ。御叮嚀に御苦労様といいたくなる。

八画ヴァージョンは論外として七画ヴァージョン「白」も実際にはある筈がないと思っていたが、先日、旧白井駅近く時宗の古刹「光勝寺」でとんでもない物を見つけてしまった。本堂に懸かっている大扁額に堂々と「白井山」と「白」の字が使われていたのだ。「まさか、お寺が」と目が点になってしまった。手元にある漢和辞典に当っ

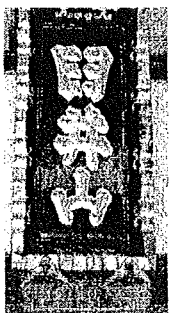
てみると、確かに「白」という字は存在する。ただし米を搗くという意の「うす」とは全く無関係で「両手で物をさへげ持つ」という意の象形文字で、音も「キョク」である。「白」とはその由来、音・訓とも全く無縁といつて良い。

となると光勝寺の山号は「うすいざん」ではないのだろうか。それとも誤りを承知で、父祖伝来の扁額ゆえ用いているということか。

誤りも伝統の内と言われればしまえばそれ迄だが、佐倉市在住の人でも「白」と書いている現状を思うと、市内の小中学生で特別に教えるべきとも思う。

ちなみに「白」は「興」という字や「兒ぐ」の中に立派に生きている。

(新白井田 村田長保)



## “いじめ”をどうする

育つにつれ人には優越感、劣等感、妬み恨みなど複雑な感情が醸成される。そういう感情を自分より弱そうな相手に衝動的に、ときに計算ずくでぶつつけるやつは必ずいる。いじめはなくならないのだ。だが何といつても問題なのは不登校であり、このごろ多い自殺者になるいじめだ。遺された親には情けなさともなしだけが残る。悲惨なことである。マスコミによると子供たち五人に一人は誰にも相談できずにいる。いじめを受ける側で最も多かったのは「力が弱い、無抵抗」で全体の約四十六%、次いで「いい子ぶる、なまいき」の十五%だという。生前にキモイと言われ口もきいてもらえない。陰口を言われ無視される。いじめっ子の何人かが陰湿に事をはこぶらしい。これが犯罪でなくて何んだ。

大人たちは孤独で弱い彼らを救わねばならぬ。それには町づくりボランティアなどを通じて子供たちとのふれあいを深め今までの大人たちの無関心を払しょくすることが必要だ。

私たちの時代もいじめはあった。しかし意地悪といつた程度のもので陰湿ではなかった。当時は戦後日が浅く食糧事情も悪く、子供たちは飢えてはいたが底ぬけに明るかった。また子供たちは土地のイペントを通じて地域の大人たちに育てられ、物の善悪を教えられおぼえていった。「弱い者いじめはするな」と諭された。

これらのことが子供たちの公德心を育てる大きな力になった。弱い者いじめをなくすことは一朝一夕にできるものではない。町中でも家庭の中でも、長い目で大人たちと子供たちとのかわりを正常にもどす不断の努力をするしかない。(南臼井台 廣吉正毅)

## 佐倉朝日健康マラソン 今昔物語

佐倉には試練に耐える物が二つある。長い坂と強い風だ。私は今十<sup>キ</sup>貯のスタート地点激しい雨の中にいる。思い出すなり、十年前の雨のスタートを。みぞれ交りのスタート前に「さあ行くぞ」の声があぶ。なんとという熱気なのか。このコースは、Qチャン始め世界ランナーの練習場だ。市民も追隨だ。五年前は、吉田香織選手に「これからは君の時代だ」と声を掛けたら、応援者から「他人のことよりお前ががんばれ」といわれた。小出監督の号砲が鳴った。公園の坂を一気に下る。宮前を上る。大佐倉田園の風を切り、坂を上り切って競技場にゴール。着替えを済ませてフルマラソンランナーの応援に向う。三<sup>キ</sup>貯を走った母と子供がお父さんの帰りを待っている。このマラソンは、公認フルマラソンの今シーズン最

後のレースである。お父さん子供の前でラストスパート。号外が配られる。見出しは「雨の中五千人が快走」とある。二十五回連続出場した人が二十一名もいるこの大会の魅力は、難コースと出店だ。みそ汁とパンと紅茶を頂く。ビールも焼き鳥もある。レースを肴に宴会だ。また思い出したぞ。京成佐倉駅前で有森スマイルの応援があつたよ。宮前の坂で鈴木博美さんと呼ばつたり。百<sup>キ</sup>マラソン世界一の実績をもつ翔ひろ子さんのお店で食事をした。例年どおり市内外のランナーが語りあつていた。ケーブルテレビに私映っているかな。思い出は尽きないがお酒が底を尽く走れる健康に感謝しお開きとする。

佐倉には、ほめたたえる物が二つある。世界女子ランナー誕生とマラソン大好き市民ランナーの明るさである。

(西志津 白石義孝)

